

日本作物学会会員の皆様へ

メダルラッシュで盛り上がったリオオリンピックも終わりましたが、さらにパラリンピックが楽しみです。猛暑の夏も終盤、一雨ごとに秋の気配がただよってきました。会員の皆様も、稲の収穫調査の時期を迎え、お忙しいことと拝察します。

さて、秋の講演会について、2週間前のご案内をいたします。龍谷大学瀬田キャンパスは、京都駅から普通電車で琵琶湖線（東海道線）5つ目の駅 JR 瀬田駅からバスで8分の場所にあります。春の学会の際には、早めにホテルの予約をお願いしましたが、調べてみますと、現時点でも滋賀県大津市や草津市内のホテルにかなり余裕があるようです。まだお申し込みのない方も、是非とも参加をご検討ください。

9月10日（土）の講演会1日目の午後は、2つのシンポジウムがあります。科研費を獲得した公開シンポジウム1「あんなかたち、こんなかたち、地域それぞれ人それぞれの6次産業」では、震災からの復興を目指す福島県をはじめ、茨城、鳥取、広島、奈良など全国各地からの個性的な取組が紹介されます。シンポジウム2「琵琶湖の環境と農業」では、滋賀県立大学や滋賀県立琵琶湖博物館の方などから、琵琶湖の環境変化、環境こだわり農業、バケツ一杯の水で生き物がわかる環境DNA、滋賀の農業史などが紹介されます。

9月11日（日）の小集会では、「若手の会ってどんな会」「パートナークropp～将来を担う作物とは」「いも類の多収を考える」が予定されています。

9月12日（月）のエクスカージョンでは、午前中に大甲湖の干拓地に建てられた滋賀県農業技術振興センターを訪問します。明治39年、日本で初めてのイネの交配品種「近江錦」が育成された試験場でもあります。その後、豊臣秀次ゆかりの城跡と水郷地帯、日牟禮（ひむれ）八幡神宮の横、和洋菓子や創作料理で有名な「たねや」「クラブハリエ」の茶屋で昼食をとりながら、地域の先端的な取組のお話を聞きます。「たねやラコリーナ」では里山風の水田や山野草園も見せていただきます。「赤もち」の赤い穂も出ている時期です。バスに余裕がありますので、是非ともお申し込みください。

暑い日が続きますが、ご自愛ください。ご参加をお待ちしています。

第242回講演会運営委員長 猪谷富雄（龍谷大学農学部） [itani@agr.ryukoku.ac.jp](mailto:itani@agr.ryukoku.ac.jp)  
同事務局長 大門弘幸（龍谷大学農学部） [daimon15@agr.ryukoku.ac.jp](mailto:daimon15@agr.ryukoku.ac.jp)